

続 孢子画 2020

木下 裕美

去年、きのこの孢子をインクにして絵を描くことをご紹介させていただきました。これまではヒトヨタケ類やツチグリを使ってセピア色のインクを作っていたのですが、2020年はモノクロからカラーに進化しました。



Leon in Wonderland
カラー第一号の作品

きっかけは、去年楽しみにしていた千葉菌類談話会通信No. 36が届けられ、吹春先生の『ブラーさんのヒトヨタケ・インク』を拝見してアラビアゴムのことを知ったことに始まります。地衣類の標本作りにも使用されるということでしたが、購入したものは白い粉末状で水に溶かしてインクの定着剤になるのです。今まで粉状で水に溶けないツチグリのインクはゼラチンを使っていましたが、こ

の定着剤を使うことで色々なきのこの色だけ集めてインクの幅が広がると思いました。

そこでひとまず色が濃いと思われるヒイロタケを使いました。



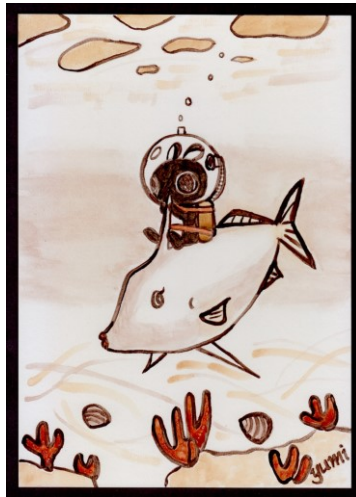
ヒイロタケは、刻んで水と一緒にミルサーで粉碎します。絞ったものをお鍋で煮詰めて水分を蒸発させてさらに沈殿させたものにアラビアゴムを混ぜました。ブラッドオレンジ色のインクの完成です。



この赤がほんの少し入るだけで絵のイメージがずいぶん変わりました。



Porchini



ギマコ in 東京湾



Happy mushroom Happy halloween



まんがれおん昔ばなし



因幡之黒兎



2020年度 胞子画色見本一覧



さて、この鮮やかな山吹色の沈殿物はアミガサタケを茹でた際に採れた胞子と思われるものです。これで黄色のインクが出来るのではないかと考えています。アミガサタケのシーズンが今から楽しみです。胞子画はまだ進化を続けます！